

## 【卒業生】2025 年度

「学習成果に関わる外部評価—  
学位プログラムの学習評価を把握するための卒業生調査」 改善案

担当：服飾学科モードクリエーションコース

文責：主任 安部智子

記入年月日 2025 年 10 月 1 日

### 【卒業生からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

#### ◆素材についての知識

業種、業務が異なっても素材、生地についての知識が重要であることはアパレル業界に就職した卒業生から言われることである。1年次の授業で学んだことが実制作において活かせてないのが現状である。授業内で各自作品に合った素材選びの重要性を意識させ、必要に応じて実際に素材の質感や形になった時の形状などを見せ、各自の作品に活かせるように改善していきたい。また、制作前に行う市場調査において、素材や生地についても今前以上に意識を向け、現在市場に出ている素材について理解させるようにする。

#### ◆ファッショントレンドやブランド、社会の動向などの調査

ファッショントレンドについては、特別授業の定期的な開催や、市場調査のレポートなどで積極的に行い、調査結果の発表なども実施する。また、自分の興味のないことであっても、ファッションは社会の動きと連動していることは折に触れて伝えているが、制作課題と関連付けて意識させるようにする。

#### ◆作品に対してフィードバック指導

現在、担当教員が実施しているフィードバック（講評）を、担当者以外の意見を聞く機会をもうける。まずは学内教員で実施する機会をつくる。

【卒業生からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

◆**役立つ授業**

改善案：現在も必修科目としてパターン（CAD・手引き）と縫製のスキル向上を重視している。今年度からは「ドレーピング&パターンメイキング」「ファッション 3D モデリング」が必修となり、より深い学修が可能となる。Photoshop や Illustrator については「CG デザイン」の授業に組み込み、継続的に実施している。今後も多様なアイテムや素材、カッティング、縫製技術を取り入れた有意義な授業内容とし、さらにトレンドを反映させながら更新していきたい。

◆**授業科目の不足・改善点**

改善案：「インダストリアルパターンⅠ・Ⅱ」では企業による特別授業や素材提供を活用し、実践型教育を行っている。「インダストリアルパターンⅢ・Ⅳ」「CAD&3D 演習Ⅲ・Ⅳ」を連携させ、重衣料を制作する。絵型から出来上がり寸法を想定し、指示寸からパターンを引くことは、これまでも授業で扱い、検定試験においても必須であるが、現状では、主体的に寸法を読み取って製図することが難しく、指示に従い作図することに追われる傾向が見られる。今後は、完成服の寸法を意識させ、自ら寸法を割り出し、製図・製品・理想とする服の 3 つの寸法を比較するグループワークやチーム学習を導入し、主体的な理解を促したい。

◆**今後必要な授業・学生が身につけるべき資質・実社会が重視する点**

改善案：4 年次「卒業制作Ⅰ・Ⅱ」では CAD による作図や 3D シミュレーションを活用し効率を高めている。Illustrator・Photoshop・PowerPoint を用いてデジタルリテラシーを向上。卒業制作発表会では口頭発表を行い、資料作成を通じて可視化・言語化・情報整理力を鍛えていく。今後は教員とのディスカッションやフィードバックを一層強化していきたい。

◆**今後必要となる知識・スキル／人材育成**

改善案：今後も基礎教育を重視しつつ、コミュニケーション力・問題解決力を育む授業展開を行う。制作物へのフィードバックを充実させ、学生が自ら改善点を見出す習慣を身につけられるよう指導を行う。

◆**学修領域の強化**

改善案：今年度より「ファッション 3D モデリングⅠ」を 2 年次必修として開講。基本操作と表現方法を学び、シミュレーションの即時性を活かして素材特性や服の構造理解を深めている。また「ファッション 3D モデリングⅡ」（選択科目）を通じて、より高度な表現を学びたい学生を支援していきたい。

**【卒業生からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】**

アンケート結果から具体的で貴重な意見を頂く事が出来た。参考にしながら、授業の改善に役立てたい。まず「役に立った、必要と感じる授業」について学部学科に関わらず、どの分野の仕事でも素材についての知識は共通で必要というご意見。その他ではマナーに関する意見がいくつかあった。マナーに自信が持てると行動に自信が持てるようになり、業種に関わらず必要な事となるため、是非学生に学んで欲しい内容だと感じている。以上の事から着目し強化したい点は下記の通り。

- ①考えや意見を持ち、それを他者に伝える力
- ②コミュニケーション力、共感力
- ③思考力、発想力で生み出す力と提案する力
- ④自信をつける

◆自信については①～③を試みた経験の中で達成感を積み重ねることによって得られるものとする事から、①～③をどのように行うかについて今後はより一層考えていきたい。現在、面談や細かなフィードバックを心掛けているがその強化促進。また、学年末に学外の方に向けたプレゼンテーションを行っているが、学生同士も含め多くの方の意見を集め、情報発言を行い、そこで抽出された意見を基に更に思考深化の機会をつくっていききたい。

◆素材については、「アパレル素材論」を現在担当している。引き続きテキスタイルの実物サンプルの収集強化を図りながら、それら教材を用いて立体的な授業を展開していきたい。一方で、ファッションビジネスあるいは造形の高度な表現にはテキスタイルが重要であるが、学生時代には、その必要性が学生に十分に浸透させにくい。今後はこれまで以上にトレンド生地などを教材として積極活用を図る事、また授業内で素材を直に、見る、触る、時間を確保しながら素材をより身近に感じてもらい、どのように仕事に役に立つのかを伝える事により一層注力していきたい。また 90 分間の授業展開方法（時間配分）を創意工夫するなど改善をしていきたいと考える。

**【卒業生からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】**

今回のFD対象となったのは、本学ファッションプロダクトデザイン専攻を卒業し、現在は株式会社コンバースジャパンで服飾雑貨のデザイナーとして活躍している卒業生となっている。卒業してから既に17年が経過しており、その間に本学のカリキュラムは大きく改善が進んで来ている事を前提として考察していく必要がある。

- ◆アンケートでは「在学中の授業が実社会ではあまり役立っていない」との回答を得ている。これは、当時の教育内容と社会で求められる力との間にギャップがあったことを示している。しかし一方で、「自分の意思を伝えるトレーニングが出来た事」は大変役立ったと評価しており、コミュニケーション力や自己表現の基礎は十分に育成されていたと捉える事が出来る
- ◆また、不足していたと感じる点として「素材の知識」や「Illustrator の技術」が挙げられている。現在では、当時と比較してデジタル関連授業のコマ数は増加しており、更には今後必要な力として「プレゼンテーション能力」や「語学力」「コミュニケーション能力」が指摘されており、加えて「現役の方との触れ合いが成長につながる」との意見も寄せられている。学生時代に業界人や卒業生と交流できる機会を増やす事が、教育効果を高める大きな要素になると理解できる。
- ◆さらに、「杉野の卒業生が業界に少ない」という印象も述べられており、卒業生ネットワークを強化し、業界における存在感を高めていく事も今後の課題と言える。
- ◆このような主要素を踏まえ、今後の授業改善の方向性としては、
  - 1.素材の知識やデジタルスキルの強化
  - 2.プレゼンテーション力や語学力の育成
  - 3.現役デザイナーや卒業生と交流できる仕組みづくり
  - 4.卒業生ネットワークの強化以上の4点が改善の方向性として重要であると考えられる。コースとして以上の改善キープポイントを具体的に積み重ねていく事で、学生が社会にアプローチしていく際の即応性の高いスキルとして機能していくようにしていきたい。

【卒業生からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

◆全卒業生からの貴重な意見と重要と考える指摘ポイント（注視する学生の声）

- ① SWOT分析等のビジネスにおける分析の仕方が役立った。
- ② 素材や繊維の特性を学べた事や生地について学んだ授業が役立っている。
- ③ illustrator や Photoshop や Office 系含めた総合的な PC のスキルが重要。
- ④ ファッショントレンドだけでなく、感染症や地球温暖化等の社会問題や、推し活や AI 等の社会トレンドなど、世の中の動向をいち早く情報収集し理解する力が必要。それらがファッションへの影響に繋がったり、ヒット商品を生み出す事や話題性のあるイベント開拓など様々なことに繋がっていく。
- ⑤ 産学連携で実際に企業とコラボしてショーまで出来た事は勉強になったと思う。ただ、学生の熱量に個人差があり、また、学生同士コミュニケーションに難しさがあった。また相手先企業があり、中身の濃い授業のため仕方無いが、出来るだけ時間内に完結できる内容、時間配分だとより良いと思う。
- ⑥ 正しいインターネットリテラシーの教育が必要。著作権問題や AI を過信しすぎてしまう人が未だ多く、正しく使用すれば新たなアイデアの発見となり、作業の手助けになる等、強い味方になる。
- ⑦ コミュニケーション力を高める教育

◆現状把握と改善策へのアプローチ

上記項目の①、④、⑤、⑦については本コースの強みでもあり、今後についても教員相互で共有を図りながら一層の授業内容のアップデートを図っていく。また⑤の学生間差異については、グループをバズ型以外にもタスクフォースを組み、各人の担当を明確化させていく。また④に示されている広義の社会的命題を思考深化する流れは従前より意識してきた事であり、今後についても主題の調査・研究を授業内に取り入れて学習機会の創造を行う。③については「情報演習」及び二年次必修科目「プレゼンテーション技法」にて対応を図っているが、担当教員と協議を進めながら更なる科目改善を指向していきたい。加えて2年次必修の「プレゼミ」にて学習機会の強化を図っていく。また⑥については「プレゼミ」及び「ブランドマネジメント論」にてリテラシーの醸成と注意事項について学習機会を設けたい。

総体的に実務に連動した現場感のある授業運営の必要性を感じさせる意見が多い。一方で外部評価に限らず各科目の内容改善は常に意識しながら進展していく必要がある。そのため意見を取りまとめてコース内各科目担当の非常勤講師を含めて情報共有を図りシラバスに対しても反映していきたい。

【卒業生からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

- 卒業生からの意見の中で、下記が良かった点として多く、今後の参考点として捉えた。
  - ①4年生大学でありながら専門性のある教育を受けられたこと
  - ②1年で基礎を学び、その後3年間専門で学べるカリキュラム
  - ③素材の知識や Adobe を全員が必修で学んでいるなど
- ◆①②は共通する点も多いが、1年の基礎でモード系もビジネス系もほぼ同じ内容で造形の基本（特にパターン）とビジネスの基本を学べる基礎課程は重要と再認識をした。その後、3年間の専門教育で学べる点は、服飾専門学校との2年より長い時間をかけることや、4年制大学としての総合的な学びも得られ、卒業生の満足度として高いと思われる。この点は他大学との差別化としている強みである。
- ◆③は卒業までに全員が得ているスキルであるが、ファッション業界で必要とされており、今後も継続していく必要のある教育であると考えます。
- 不足している点や今後必要なスキルとして挙げている中で、下記の点が特に流通イノベーションコースとして改善していく必要性を感じた。
  - A インターネット知識、SNS や生成 AI などデジタルスキルとリテラシーの必要性
  - B 教員の授業への取り組み方の向上、目的を持った教育の方法
- ◆A については、流通イノベーションコースで取り組みをしているが、今後の社会で重要なポイントであるという認識を改めて感じ、デジタルスキルを広く浅く扱うのではなく、日々変化していくスキルを深掘りした教育と指導が必要であると感じた。
- ◆B については A と同様で、本コースでは企業で経験豊かなゲストを招聘しての特別講義を多く実施しているが、その内容がコースコンセプトでどういう学びの意味や目的なのかを明確に伝達してプログラム作りをする事が重要だと反省をしている。今後の改善案として、コース2年から4年までの教育プロセスと方向性、最終到達目標を明確に伝え学生の理解を深める。それは1年生へのコース説明から始まり、2年生がコースに入った時点で、4年卒業時の到達目標を明確に伝える。事例でいうと、2年プレゼミで実施している SNS 運営やメルカリ体験等もその場限りの指導でなく、3年ゼミでブランド作りからネット販売をしていくためのプレ体験である事を伝え、コース最終目標、卒業後の進路等を学生に自覚させる教育を教員が実施していく事が必要である。23年度から開始した生成 AI については、当初は体験するだけであったが、最近の多くのアパレル企業が商品企画から EC ビジネスまで幅広く取り入れている事も鑑み、今年度からは3年のブランドコンセプト作り、卒業論文でのテーマ選定で扱っている。生成 AI が実装されていく社会の中で、卒業後に通用できる内容に深掘りする指導に改善していく。

担当：初年次教育担当

文責：水野真由美

記入年月日 2025年10月1日

**【卒業生からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】**

卒業生評価より、実社会で役に立っていると感じる在学中に受講した授業科目、また仕事を進める上で、不足あるいは必要と感じる授業科目として素材の基礎知識が挙げられている。

◆「服飾造形基礎Ⅰ」「服飾造形基礎Ⅱ」では、制作実施前に素材についての学習項目を取り入れている。スカートやブラウスの基礎課題においては、限られた素材に限定されるが、現在、造形基礎の共通資料であるテキスタイルサンプルを授業内では、学生が直接手に触れることで素材の特性理解へと繋げている。マーケティングリサーチで知る素材も多いことからテキスタイルサンプル数を増やしていく。

◆「ファッション画Ⅰ」「ファッション画Ⅱ」では、服の構造・生地素材についてファッションイメージを表現するためにシャツやスカートの着装を描くことを実施している。両科目での連携授業では、制作課題のデザイン画指導をファッション画担当教員に依頼をしている。学生の作品を通し、情報交換を行い継続して連携授業の取り組み内容の充実をはかる。

◆「衣服材料学」では、衣服材料の基礎知識の習得により、自分の着ている衣服素材、材料説明をできることが、到達目標としている。各科目の重要性と横断的に学ぶことで、より、素材についての知識も高まるということを、学生に伝えていく。

◆「社会人基礎」の授業を通して学習していることもマナーやコミュニケーションをとる上で重要である。必要とされる科目が既に初年次では実施されているので、「学修基礎」の授業を通し、早い段階で学生に、授業への取り組む姿勢を身に付けられるように、シラバス内容の検討を再度行う。

◆語学科目は必須であり、英語に限らず幅広い言語に触れることが重要であることがわかる。国際交流が増える中で多様な言語スキルが求められているため、授業では交流に備える心構えを育てるとともに、授業外にも繋がる学習方法やツールを紹介し、更に発話や作業緒を通して実践的に取り組むことが必要である。

以上

【卒業生】2025年度

「学習成果に関わる外部評価―

学位プログラムの学習評価を把握するための卒業生調査」改善案

担当：服飾表現学科・衣装表現専攻

文責：大町志津子

記入年月日 2025年10月1日

【卒業生からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

◆**実社会で仕事を進める上で、不足あるいは必要と感じる授業科目や学修内容について**

- ・グローバルな世界で活躍できる自分自身の自己表現。

上記に対して自分自身の自己表現というポイントにおいては表現学科・衣装表現では常に授業の一貫として組み込んでいる。グローバルな世界観に於いては個人的な要素が強く内在するが、更にそれに向けて意識させるように取り組んでいきたい。

- ・もう少しリアルで実践的な体験授業があると良かったと思う。

「衣装表現」では学外演習やプロの講師をお呼びしてワークショップを行っている。

プロの方の話や実際に会社に訪問することで学生の意識が充分に変容していく事を毎年度実感している。今後は更に重視しながら取り組んでいきたいと考える。

◆**今後必要性が高まると思われる授業科目や学修内容**

- ・プレゼン能力が重要。

上記に関しては、自己表現を制作物を通して具現化する本専攻の特性上、プレゼン機会は多く、今後もその質の向上に向けて取り組んでいきたい。

◆**在学中に学生が身につけておくべき資質や能力**

- ・知識を身につけ、思考を行うことにより結果が出ることもあると感じる。

本専攻だけで課題解決は出来ないが、関係性が弱い内容についても教員のより多くの経験をや考え方を伝えることを心掛けていく。

- ・考える力と選択肢を持つ力。

これに対して取り組んでいることは、常にフィードバックを繰り返すことで学生の考える力を養っており、今後も継続させていきたい。

◆**今後どのような人材育成や教育が必要になるとお考えですか**

- ・自主的に考え行動できるような人材育成、また発言力を養う教育が必要だと思う。

上記については、発言力を養うために常にレポートを書き言語化することを繰り返し行い、自分の考えを持つことに注力している。また授業中にプレゼンテーションを行うことを課している。更にそれらによりコミュニケーション力も高めることが期待できる。

【卒業生】2025年度 外部評価 改善案

担当：服飾表現学科・スタイリング専攻

文責：中村のん

記入年月日 2025年 10月 1日

【卒業生からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

※本専攻として直接的に該当する箇所は無い。一方で毎年度指摘を受けるコミュニケーション能力、問題解決能力については、授業内でも意識して取り組んでおり、今後も引き続き強化・推進していきたい。

【卒業生】2025年度 外部評価 改善案

担当：服飾表現学科VMD専攻

文責：中島ゆう子

記入年月日 2025年10月1日

【卒業生からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

◆実社会で役に立っている感じる授業、不足している授業について

上記については、基礎学習が重要だと考える。事例としては、素材の知識、SNSの運用手法、パソコンソフトの活用法などであり、本専攻においても、それらをより実践的に活用する授業をもっと取り入れていく事を目指していきたい。またVMDでは、素材、ディテール、商品名など基本が大切と考えており、実際のVMD授業で実施している。

◆受けていればよかった在学中の授業と今後必要性が高まる授業について

本専攻の直接科目では無いが、語学力、パソコンスキル、AIツール、プレゼン能力を含め、時代の中で進化へ対応していく事が重要と考える。その時代対応については本専攻としても強く意識して授業改善に役立てていきたい。

◆在学中に学生が身につける資質と広く人材として実社会が重視していると思う点

技術より思考力、問題が起こっても対処できる考え方、実行力を高められる環境を作ることが大切だと感じている。本専攻においても上記の視点を意識しながら授業進行を引き続き行っていきたい。加えて指導上気を付けている点は、学生自身の自信、大学への誇り、行動力が大切であると考えている。そのため授業全体を通じて、コミュニケーション能力、考える力、即断できる人材育成、自分を売り込む能力、等を意識した指導を今後も強化していきたい。

◆今後必要なスキルについて

表現学科の特性である実務家系教員の保有する能力を生かしながら、語学力、コミュニケーション能力、SNS、イラストレーションを含むあらゆるソフトが使いこなせる能力、自分の言葉で話せる能力などを醸成しながら、実社会で実践的に活用できるように引き続き指導をしていきたい。

【卒業生】2025年度 外部評価 改善案

担当：服飾表現学科・メディア表現専攻

文責： 角倉典彦

記入年月日 2025年10月1日

【卒業生からのご意見を踏まえ以下の改善を検討】

◆**コミュニケーション能力の醸成が重要**

大学は、学術の中心として深く真理を探求し専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを本質とするものであるが、一方で将来の人格的な発展の基礎を培うためのものであり、技能や知識の習得のみを目的とするのではないという大学教育の基本的特性が存在する。

卒業生からの指摘ポイントは、初等教育、家庭内指導、就業後の人材教育にも関わって来る内容と考えられ、各々の学生との接点における人間形成も重要となって来る。その上で大学の限られた授業時間の中だけでは解決出来ない事でもあるため、高大連携や各ご家庭との連携、企業との連携、教員同士の連携を通じて問題解決に向けた方法論について引き続き協議・検討していきたい。

以上